

学校法人東京女子大学2013年度事業計画

・基本方針と重点施策

本学は創立以来、建学の精神である「キリスト教を基盤としたリベラル・アーツ教育」を通して女子高等教育の発展に寄与してまいりました。近年では、国際化、多様化の進む社会に積極的に参画し、活躍する人材の育成に取り組んでいます。2013年度もこうした理念に基づく教育を着実に進めます。

学部については、本学の教育の特色・伝統を現代社会に生かす視点で再構築した全学共通カリキュラムを2013年度よりスタートさせます。全学共通カリキュラムの充実と学科カリキュラムの改革を進め、広い視野と深い見識を養うことにより、多様化・複雑化する社会に対応する力の涵養を図ります。

大学院については、2013年度が人間科学研究科博士前期課程の完成年度となります。同研究科博士後期課程と合わせ、人文科学、社会科学の両面から望ましい共生社会の実現に向けた研究体制が整えられました。

施設面では、震災への対応として、2011年度までにすべての建物について耐震強度診断を行い、必要な補強工事を完了させました。2012年度は、自家発電設備や備蓄倉庫の設置、非常用放送設備の改善等を行いました。2013年度も、さらに防災機能の充実を図ります。

先人の努力により、本学のキャンパスは豊かな自然環境に恵まれております。今後とも環境・景観の保全に力を注ぎ、学生にとってはより快適で学びに集中できる場であり、地域の方々に愛されるキャンパスとなるよう努力を続けます。

本学は2018年に創立100周年を迎えます。建学以来の歴史を大切にするとともに、これからの100年に向けて、教育・研究の充実を図るとともに、施設の整備を進めます。また、今後の発展を支える財務基盤の強化と、変化する環境に迅速に対応できる体制を確立してまいります。

上記の方針のもと、2013年度は大学にとって最大の責務である

1) 学部教育の充実(改革の推進)

2) 大学院教育の充実(人間科学研究科博士前期課程の完成)

に加え、以下の項目を重点施策として進めてまいります。

3) 丸山眞男研究プロジェクト「20世紀日本における知識人と教養 丸山眞男文庫デジタルアーカイブの構築と活用」の推進

4) 生涯にわたって卒業生等を支援する東京女子大学エンパワーメント・センターの活動

5) 女性研究者研究活動支援

6) 計画的なキャンパス整備

7) 創立100周年にむけた事業計画の策定

8) 大学のマネジメント体制の整備

9) 教育活動を支える財務基盤の強化

・教育・研究活動

1. 学部教育の充実

東京女子大学は、キリスト教を基盤とする人格形成を根本方針としています。その方針に基づいて、リベラル・アーツ教育を通じて高度の教養と専門能力を授け、真理と平和を愛し、人類の福祉に寄与できる女性を育成することを目的とし、以下の点に留意した教育を行っています。

- (1) リベラル・アーツ教育：専門分野の修得と同時に、多様な分野の授業科目を学ぶことにより、自由な心と幅広い視野を育み、現代社会の様々な問題に新しい発想で向きあうことのできる「専門性をもつ教養人」を育成する。
- (2) 少人数教育：少人数の参加型の演習形式の授業で、自ら学ぶ力や考える力を伸ばす。卒業論文等の卒業研究を大学教育の集大成と位置付け、自ら考えたテーマを自ら調べ、解決策を案出し、発信する能力を養う。
- (3) 英語教育：習熟度別クラス編成、ネイティブスピーカーによる授業、「行動的な英語力」を養うキャリア・イングリッシュ課程など、多様なカリキュラムを通して「使える英語力」を養う。
- (4) 学習環境：学生の学習に最適な環境を提供する。
- (5) キャリア教育・キャリア支援：リベラル・アーツ教育に基づく正課内のキャリア教育とキャリア・センターを中心とした正課外でのキャリア教育との連携により、体系的なキャリア構築を支援する。

2013年度は、以下のような施策により、教育内容の一層の充実を図ります。

1) 新たな全学共通カリキュラムのスタート

自己点検・評価結果をふまえ、キリスト教の精神、女性の自己確立、教養教育など、本学の教育の特色をより明確に反映させ、それを現代社会に生かす視点で再構築した全学共通カリキュラムがスタートします。夫々の授業科目の位置づけ、学習の目的・意義をわかりやすくし、さまざまな領域から、自分で考え履修計画を組み立てられるように学びのしくみを整備しました。

- ・各科目や科目群の教育目標、到達目標、難易度の明示
- ・コア科目（第一外国語、第二外国語など学生に必ず習得することを求める知識・技能に関する基礎科目）の設置
- ・勉学の基礎となる科目の強化（日本語で論述する力・コミュニケーション力を育成する日本語科目の新設など）
- ・初習の第二外国語の授業における少人数教育の徹底
- ・視聴覚教育センター、キャリア・イングリッシュ・アイランド、図書館など教室外での学習支援

2) 学科カリキュラムの改革

本学は、課題探求力、問題解決力、コミュニケーション能力等を育むために、従来より学生参加型の少人数教育を行ってまいりました。今後はこれに加え、2012年度に実施した全学にわたる自己点検・評価結果、学生の授業満足度調査、社会の要請の分析を行い、21世紀にふさわしい魅力ある学科づくりを目指します。

3) 入試制度の変更

2012年度に現代教養学部が完成年度を迎えることを契機に、過去4年間の入学試験結果の分析を行い、教育改革と統合的な入学選抜制度について検討を進め、2013年度入試では以下の変更を行いました。2014年度入試に向けて、2013年度に以下の改善点に

ついでに検証を行います。

(1) AO入試については、導入当初と異なり、学力以外の活動で成果をあげた受験生が少なくなっている状況に鑑み、2013年度入試より高校生対象のAOによる募集を停止しました。

(2) 入試動向の調査・分析結果に基づき、入試日程を変更しました。

(3) 入試動向の調査・分析結果に基づき、大学入試センター3教科型入試の募集人員を拡大しました。

(4) 入学初年度の学納金負担の軽減を図り、入学金を10万円減額しました。

2. 大学院研究科の充実

東京女子大学大学院は、キリスト教精神に基づく人格形成を根本方針となし、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて文化の進展と人類の福祉とに寄与することを目的としています。

2012年度に、文学研究科及び現代文化研究科修士課程を再編し、人間科学研究科博士前期課程を設置しました。これにより、理学研究科に続き、学部、博士前期課程、博士後期課程が円滑に接続されることとなりました。人間科学研究科博士前期課程は2013年度に完成年度を迎えます。改革の理念に基づき、学際的視点からの研究を深め、専攻分野での自立的な研究能力を身につけることを目指し、新たに「論文指導演習」を加え、充実した修士論文作成指導を行います。これにより、世界が直面している多様で複雑な課題に対応できる研究者、高度な専門的職業人を送り出してまいります。

3. 図書館における学習支援の強化

2007年度から取り組んできた「マイライフ・マイライブラリー」プログラムにより学習滞在型図書館が実現し、学生が授業と並行して自習やグループ学習に積極的に図書館を活用する姿が日常的に見られるようになってきました。2013年度からは、正規授業との連携をさらに強め、新入生全員に入学当初の時点で基本的な情報検索ガイダンスの受講を必須とし、大学の学修に必要な情報検索能力を早い段階で習得させます。これにより学生は教室外学習を一層効果的に進めることができます。図書館は知の拠点であるとともに、本学のリベラル・アーツ教育を支えるための拠点として、その取り組みを充実させてまいります。

4. 研究所等における研究活動の展開

1) 比較文化研究所

人文・社会・自然科学の諸領域における比較文化的研究及び日本キリスト教史・キリスト教文化に関する研究と資料の収集を行っています。

2) 比較文化研究所附置丸山眞男記念比較思想研究センター

当センターでは丸山文庫の整理、未公刊資料類の公開・翻刻等を行い、その成果を学内外に還元してきました。2012年度には研究プロジェクト「20世紀日本における知識人と教養丸山眞男文庫デジタルアーカイブの構築と活用」が、文部科学省の「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に採択されました。21世紀の教養と知のあり方を究めるための研究及び丸山文庫所蔵資料をデジタルアーカイブ化する活動を2016年度まで継続して行います。

3) 女性学研究所

女性学の視点を導入した人文・社会・自然科学の諸領域にわたるプロジェクト研究・個人研究、女性学関連授業の企画等、学外や海外に開かれた女性学の研究交流と教育の拠点としての活動を行っています。また、毎年、優れた研究を表彰し賞金を授与しています。

5. エンパワーメント・センターの開設

2013年度より、東京女子大学エンパワーメント・センターを設置します。本センターの目的は、生涯にわたるキャリア形成を支援するとともに、社会の多様性を受容し、共生社会の形成に貢献する本学学生、卒業生及び修了生、加えて地域住民等を支援・育成することです。

6. 国際交流の充実

国際交流センターを中心に、外国の大学や教育・研究機関と教育面及び学術・文化面での交流を進め、国際支援活動にも参加してきました。本学学生の留学促進と外国人留学生の受け入れを拡大するため、2013年度も引き続き、海外の相互受入協定締結大学及び語学研修先の拡充を図るとともに、国際交流奨学金の充実を検討してまいります。

7. 社会貢献の推進

各種公開講座、心理臨床センターの活動、ボランティア・ステーション、近隣の大学や地方自治体との共同事業等を通して、社会貢献活動を進めております。

1) 東京女子大学の公開講座等

- (1) 東京女子大学・杉並区教育委員会共催：杉並区内大学公開講座
- (2) 夏季特別講座（高校生対象）
- (3) 夏季特別講座（一般対象）
- (4) チャペルコンサート/クリスマスコンサート
- (5) プリティッシュ・カウンスル社会人英語講座 等

2) 東京女子大学心理臨床センター

- (1) 地域住民・機関を対象とする心理臨床相談活動及びコンサルテーション活動
- (2) 地域住民・機関を対象とする研修及び公開講座 等

3) 東京女子大学ボランティア・ステーション

- (1) 学内外のボランティア活動に関する情報提供
- (2) ボランティア活動に関する学生の相談への対応
- (3) 学生のボランティア活動支援 等

4) 杉並区と区内六高等教育機関との連携協働

5) 武蔵野地域五大学共同事業

6) 三鷹ネットワーク大学

. 教育研究環境の整備

1. キャンパス整備

1) 学内に、2015年度着工・完成を目指して、今の時代にふさわしい設備を整えた学寮を建設します。新寮は教育寮として学生の自治により運営され、先輩後輩と共同生活を送る中で個々の学生の社会的成長を図ります。

2) 災害発生時の備えとしてインフラストラクチャーの整備を進めています。2013年度は既存7号館内のトイレを災害対応型・エコロジー型に改修増設するほか、ユニバーサル型も設置します。

2. 教育設備の整備

1) 教室棟のLAN 工事

2013年度も学内無線LANを拡充します。これにより特定の棟を除き学内のほぼすべての施設でインターネット接続が可能になります。

2) 教育研究用システムの更新

2012年度、2013年度の2か年計画で教育研究用システムを更新しています。

2012年度は情報処理教室のサーバー・端末コンピュータを一括更新しました。

2013年度は、基幹ネットワークシステムを更新します。今回の更新により、高速化と機能拡大が進み、学習者にとっての利便性が向上するとともに、これまで以上に安全に学内のネットワークが利用できるようになります。

3. 奨学金制度の充実・学生への経済支援

1) 東日本大震災被災地(災害救助法適用地域)からの入学者に対し、入学検定料・入学金・学費の減免制度があります。

2) 本学では、現在、経済的サポートを必要とする学生ほぼ全員に、学内外の何らかの奨学金が支給できる状況にあります。2013年度も以下の本学独自の制度に加え、学外奨学金の受給拡大に向けた支援体制を強化します。

(1) 新渡戸稲造奨学金(経済状況を勘案しない育英型奨学金、学部新生に年間授業料相当額を4年間授与)

(2) 東京女子大学奨学金(学業成績優秀でかつ経済的支援を必要とする学生を対象に授与または貸与)

(3) 留学する学生対象の奨学金 ほか

3) 学生納付金の改定

2013年度に学部学生納付金を改定しました。保護者の方々にご負担の重い入学初年度の負担軽減を図り2013年度入学者より入学金を10万円減額しました。他方、本学の充実した教育に見合う費用として、授業料を4万円増額しております。

4. 自己点検・評価と質保証

2012年度から行っております学部・学科の自己点検・評価を2013年度も引き続き実施します。2012年度は、主にカリキュラムの適切性について点検・評価を行いました。

2013年度は、2013年3月に最初の現代教養学部の卒業生を送り出したことから、2012年度の自己点検・評価結果と4年次学生アンケートの分析を踏まえ、アドミッションポリシーの適切性、ディプロマ・ポリシーに基づく学部教育の質保証について点検・評価を行います。また、前年度までに実施した「全学共通カリキュラム」の自己点検・評価結果、「FD活動」の自己点検・評価結果及び三女子大学連携相互評価結果を受けて関係委員会、関係部署に改善の方向付けを行うとともに、その改善状況を確認するなど、引続き全学的な「内部質保証システム」の改善に努めます。

5. Faculty Development (FD) 活動

教育内容・方法の改善に向け、学生による授業評価アンケート、授業評価に関する検討会、シラバス改善、教員相互の授業参観、教員の学内研修、大学院の授業及び学位論文指導についての検討会等、全学的に、広い分野でFD活動に取り組んでいます。

6. 女性研究者研究活動支援

2012年度に文部科学省が支援する「女性研究者研究活動支援事業」実施校に選ばれ、女性研究者支援室を設置しました。女性研究者がその能力を十分に発揮できるよう、研究環境を整えるとともに、女性研究者の比率を高めることを目指します。

・創立100周年記念事業

本学は2018年に創立100周年を迎えます。これまでの本学の100年の歴史を振り返り、今後の100年の発展の礎を築くべく、中長期の教育目標を定めます。創立100周年記念事業計画委員会の下で、100年史の編纂、記念募金の募集、記念事業の計画を進めてまいります。

具体的内容としては、学部教育改革、教育環境の整備、国際交流の推進、在学生・卒業生のキャリア形成等に関して事業を展開してまいります。

・管理・運営

1．経営基盤の強化

激変する社会に対応し、社会の要請にこたえる大学であり続けるために、運営体制を強化し、長期的な展望に基づいた大学運営を目指します。

社会の変化、法改正等に対応した権限規定の見直しを進め、責任と権限の明確化、意思決定のスピードアップを図ります。

また、2013年度も教育・研究環境の向上に必要な投資を継続して行う一方、将来の投資に向けて健全で安定した財政基盤を構築してまいります。

2．危機管理と対応

1) 大規模自然災害への対応

災害発生に備え、資材・備品の備蓄を充実させるとともに、全学的な避難訓練を実施し、災害発生時にスムーズな対応ができるよう努力を続けています。(建物改修工事については、「- 3 キャンパス整備」をご参照ください。)

2) キャンパス内の安全の維持

本学は開校時はすべての校門に警備員を配置して不審者の監視体制をとっております。夜間は閉門をするほか、通用口は24時間体制で警備員を置いています。また、昼夜を問わず警備員が構内を定期的に巡回し、学生の安全確保に努めています。さらに、キャンパス内の植栽整備、施設改善にあたって安全面からの考慮を加え、より安心できるキャンパスの実現に努めております。

・その他

1．寄附の充実

奨学金、教育施設・教育研究経費の充実のため、本学への寄附金に対する所得控除や税額控除制度についてご案内をし、従来からご支援をいただいている維持協力会を始め、広く寄附を募っております。

2．広報活動の強化

本学の教育理念、教育・研究の実績、学生の活動をより多くの皆様に知っていただくために、学報を発行し、ホームページの充実を図っています。そのほかにも、教職員による高校訪問、地域交流等本学からの情報発信を積極的に行っています。

3．同窓会・卒業生との連携

本学には5万人を超える卒業生がおられます。今後とも同窓会との協力体制を強化し、卒業生間のネットワーク作りを進めます。

以 上